

平成17年度国立大学法人東京海洋大学第1回役員会議事要録

日 時 平成17年4月21日（木）15時～16時50分

場 所 本部管理棟第1会議室（品川地区）

出席者 高井学長、桑島理事、岡本理事、澤田理事

陪席：松前監事、峰監事、渡部事務局長

事務担当者：秦総務部長、鈴木財務部長、鈴木学務部長ほか事務関係者

報 告

1 現代GPについて

桑島理事から、募集テーマ「仕事で英語が使える日本人の育成」に申請する旨の報告があった。また、募集テーマ「地域活性化への貢献（地元密着型）」への申請も検討中である旨の報告があった。

2 平成17年度入学者選抜状況について

桑島理事から、資料1「平成17年度入学者選抜状況」により、平成17年4月1日現在の入学者選抜状況の報告があった。

3 平成16年度進路状況について

桑島理事から、資料2「平成16年度卒業・修了者の進路状況」により、平成17年3月25日現在の進路状況の報告があった。

4 平成16年度収入・支出状況（3月末現在）について

事務局から、配付資料「平成16年度収入・支出状況（3月末現在）」により、3月末現在の収入・支出状況について報告があった。

議 事

1 本学の重要課題について

本学の重要課題について、参考資料1「国立大学法人東京海洋大学中期目標」、参考資料2「我が国の高等教育の将来像＜中央教育審議会 答申 要旨＞」を参考に、意見交換を行った。

主な意見等は以下のとおり。

（高井学長）

- ・ 本学の理念を基本に据え、中期目標の達成に向けて努力していく。大学が果たすべき役割を教育・研究・社会連携の3本を柱に、具体的に取り組むべ

き重要な視点として、「現代的な視点からの水産業への取り組み」、「海運ロジスティクス（物資流通）に対するシステム開発」、「工学を中心としたものづくりの大学の構築」、「高度専門職業人養成の視点からの船舶職員養成」、「才能豊かな学生の確保」、「海洋について政策提言できる人材の養成」に力を入れていきたい。

- ・ 海を中心としたグローバルな視点での国際交流に積極的に取り組んでいきたい。

(桑島理事)

- ・ 海洋大としての特色（個性）を打ちだすべき。そのためにも、人的・物的資源を重点分野に集中させてはどうか。
- ・ 本学の船舶職員養成の将来像として、海事技術者養成を検討してはどうか。

(岡本理事)

- ・ 海洋大となって、社会からどのように見られているかが重要である。国の要請にも応えられる大学でありたい。そのためにも、卒業後、リーダーとなれる人材の養成をしていくべき。
- ・ 教育面では学部レベルでの英語教育に力を入れ、研究・社会連携面では外部資金の獲得に力を入れたい。
- ・ 広報活動にも力を入れ、大学名の周知・優秀な学生の確保に繋げていきたい。

(澤田理事)

- ・ 財務体質の健全化のためにも、外部資金の獲得など経営面を充実させたい。
- ・ 優秀な学生を集めるためには、優秀な教員を確保する必要がある。このため、教員の人事・給与制度の見直しが必要である。他大学では、授業料免除等により優秀な学生を確保しているところもある。
- ・ 船舶の維持・管理も検討する必要がある。

(松前監事)

- ・ 海洋大学としてスタートし、新たな分野・視点に挑戦していくことを社会から期待されているように思う。日本を取りまく海の問題を総合的に捉え整理していく役割、海を土台とした人づくりの役割、また、海に関わるさまざまな問題の解明等で、他の学問分野との協力関係を構築していく役割などが求められているのではないか。

(峰 監事)

- ・ 現在では、船舶の運航は物流システムの一部として認識されている。学生に広い視点を与えるためにも、第一線で働く先輩の話聞く機会を設けてはどうか。業界のリーダーとなれる人材、行政で活躍できる人材を養成して

ほしい。また、社会へ出ると英語が必要となるので、ぜひ英語教育に力を入れてほしい。

(高井学長)

- ・ 限られた資源の中でどの部分に力を入れていくのか、選択と集中を今後考えていく。
- ・ その時々のおかれた状況も見ながら、新しい分野にも挑戦していきたい。
- ・ 先輩等の話を学生が聞く機会は、ぜひ設けたい。

以 上

配付資料

- 平成 17 年度入学者選抜状況(資料 1)
- 平成 16 年度卒業・修了者の進路状況(資料 2)
- 平成 16 年度収入・支出状況(3 月末現在)(配付資料)
- 国立大学法人東京海洋大学中期目標(参考資料 1)
- 我が国の高等教育の将来像<中央教育審議会 答申 要旨>(参考資料 2)
- 平成 17 年度役員会等開催日程(参考資料)